

指定文化財候補について

3-3-q 生活

q-1 佐々木家住宅

・鳥取市上町93-1 / 佐々木通元

主屋

木造・2階建・切妻造・桧瓦葺

昭和5年

旧佐々木家住宅は、別名グランドアパートと呼ばれ、重要文化財・^{おおちだに}櫛谷神社に近い閑静な住宅街に建つ東西棟の洋館建築である。現所有者の佐々木通元氏の父・善政氏が、大工植山某に依頼し、贅をつくして造らせたもので、昭和2年に着工、昭和5年に竣工した。ただし、当初部分が残るのは玄関のある東半分で、西半分は昭和21年に進駐軍に接収された際に増築したものである。

洋館というものの、意匠・構造は和洋混在で、たとえば主屋の屋根は切妻造・桧瓦葺だが、玄関の屋根のみ銅板の葺きながしとする。玄関ホールにある螺旋階段は仁風閣の階段を真似たもので、明治44年頃に造られた^{さんかい}賛恢病院のものを移築してきたという。当初部分の窓の大半は洋風の上げ下げ窓で、玄関の洋風扉のデザインも特徴的である。また、2階の当初部分4部屋は全て意匠が異なり、和室も設けていた。その他、現在はみられないが庭園にも趣向を凝らしていた。

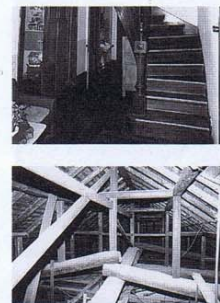
この住宅は、第二次世界大戦後に進駐軍の接収を受け、1階はダンスホール、2階は山梨からきたノーラン将校らの宿舎として使われた。その際、西半分が増築されたため、当

初部分と増築部分では、当初は小屋組を和小屋とし、壁体を木舞でつくるのに対し、増築部分は小屋組をキングポスト・トラス、壁体を木摺でつくるという違いがある。また、増築部分の1階テラスには、メキシカンスタイルの柱頭飾りが残る。このほか、接収を物語るものに、元ダンスホールの外人女性の壁画や横文字の古びた室名札などがある。

接収は昭和29年に解除され、佐々木氏はしばらく1階をダンスホール、2階をホテルとして営業したが、その後アパートに大改造し、現在もアパートとして使われ続けている。

佐々木家住宅は改造された部分も多いが、当初の意匠や構造も残っており、当初形式もある程度うかがえる。また、進駐軍の接収を受けた際の近代的な増築・改造の形跡も残しており、鳥取の昭和史の一端を物語る貴重な遺構といえよう。

(連沼)



(上) 玄関と螺旋階段
(下) 当初部分の小屋組

正面全景



〈図面〉

(左) 平面図
縮尺 1/350

(右) 正面図
縮尺 1/250
上田設計室作成図面
を転載

